前向きに生きる自信と勇気を育む母親に、エールを！

先に HP「お母さんたちの涙に、あなたは何を思いますか？（「雑学ＢＮ」の講義等関係（Ⅲ）Ｐ、2006.07.16.　：参照）」で触れたお母さんとは、その後もメールでの交流をさせていただいている。

最近、周りの理解を願い、単に待つのでなく、ご自身が母親として出来ることを考え、行動する力を育まれている様子の、次のようなとっても嬉しくなるメールをいただいた。
【　連休明けにも、学校へ相談しようと思っていることがあります。特殊教室にいます子供の件です。
高学年になって普通学級との交流も増えました（昨年は、自由な特殊教室の居心地が良すぎて、交流を嫌がっていました）。

普通教室の子供たちへ、子供がどうして特殊教室にいるかを分かりやすく話し合う機会を設けてもらうと考えています。
誕生から入学、そして今を紙芝居風にして、今後どのように接してもらうと良いかを話し合いで少しでも理解してもらったほうがいいのではないかと、すごく思うのです。
いずれこの子たちも中学校へ入学する。そのときのためにも、今のうちに何かをしておかないといけない。
いったいなんだろうと考えた時に、私が普通教室の子供だったらきっと、“どうして、みんなとちがうの”と疑問を持つと思うのです。だったら、どうしてか、と言う事を説明する必要があるように思えたのです。

先日の家庭訪問のとき、先生へ父兄に対しての説明について相談しました。学年懇談会にでも機会を設けましょうと話してくれましたが、まてよ、まずは親より直接係わる子供たちへ話をしなくてはと思ったのです。

子供の将来の不安に、今何をしなければならないかを考えるくらい余裕が出来たのでしょうか？

なんか色々と書いちゃいましたが、何もしないで不安に思っているより不安を解消するために、試行錯誤をしたいな～と思っています。何もしないのも不安、する事も不安、だったらした方がいいですよね。　】

やはり、我々の出来ることといえば、親御さんたちがご自身でお子さんと共に前向きに生きる自信と勇気を育むことに、ほんのちょっとお手伝いをさせていただくために、側にいさせていただくことかなと思う。

阿部幸泰　　（2007 年 4 月 29 日　記）